能登半島地震の被害状況を解説

地盤品質判定士会 課題解決ゼミに60人

地盤品質判定士会九州支部（支部長・笠間清伸九大工学研究院教授）は5日、支部総会に先立ち、福岡市のJR博多シティ会議室で「地盤に関する課題解決ゼミ」を開いた。対面とウェブを併用し60人以上が参加した。

笠間支部長は九州支部の活動内容を紹介するとともに、「支部が開催するゼミのキックオフになる。住民に近いところで風通しを良くしたい。大学のゼミの感覚で気軽に意見を述べてほしい」とあいさつした＝写真。

この後、橋本隆雄国土舘大理工学部特任教授が「地盤品質判定士が見た令和6年能登半島地震の被害状況」をテーマにオンラインで講演した。橋本教授は「液状化被害は砂丘地形の改変や旧河川から地下水が流入する側方流動によって起こった。宅地の盛り土崩壊箇所は下部が軟弱層で地下水位も高い」と指摘し、地下水位低下工法や地盤改良工などの対策を説明した。

引き続き、九州支部の内野隆文技術委員長が宅地地盤の個別相談状況と地盤品質判定士の対応事例を紹介した後、高齢者が気軽に相談できる仕組みづくりや行政、技術士会、建築士事務所協会など他団体との連携を課題に挙げた。